

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100016
法人名	社会福祉法人 恵優会
事業所名	グループホーム青葉町日和
所在地	山梨県甲府市青葉町14-15
自己評価作成日	令和 6年 12月 1日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 7 年 2 月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が主体であること。やりたいことが出来るように支援すること。新型コロナが5類に移行したが高齢者施設ではまだ思うように外出支援が出来ない現状があるが毎月テイクアウト弁当の日を設けたり、全国ご当地グルメツアーを開催。季節の行事を階催。特に節分には大神さんから鬼が来て豆まきを楽しんでいる。また毎月1回パンの訪問販売にてパンをご自身で選んで購入して頂き、おやつに提供している。春には1階にある小さな菜園に野菜を作って、収穫を楽しんでいる。春や秋など気候に合わせて近所に散歩に出掛けたり、青葉町グラウンドで階催される地域の行事にも参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名の日和は「穏やかに年を拾い合う」という意味合いでネーミングされています。パンフレットには「いつまでもその人らしく、そっと寄り添い、気軽に地域へ」と謳っており、職員の皆さんが利用者を主体に、自己選択、自己決定を支え、地域とつながるとあります。このことを意識して支援している結果として、フロアで過ごす入居者の皆さんの穏やかさと笑顔が証明してくれています。外出しづらい状況下では、テイクアウト弁当やパンの日を提供して、好きなものが購入できる日、全国ご当地グルメツアーを企画する等、入居者がストレスを溜めず楽しみを持って主体的に生活できるよう、多彩な取り組みを提供していることを高く評価します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義は研修会を開催し共有している。事業所の理念は入職時のオリエンテーションで確認し、事業所内に掲示している。	理念は事業所内に掲示してあります。毎月の職員ミーティングで理念を確認し、意識づけをしています。利用者を中心に、出来ることを尊重し、尊厳をもって日々の関わりを大切にしたい支援につなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事が再開されるようになり参加している。また、青葉町民生委員は運営推進会議に出席頂いており、日々の活動報告をしている。	法人で自治会に入っており、区の情報は法人から知らせてもらっています。10月には町の運動会に参加、節分には大神宮から鬼が来てくれ、にぎやかに豆まきが行われました。また推進会議の委員である民生委員さんが地域とのつなぎ役を担ってくれています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他法人の運営推進会議に出席している。その場で同じ認知症対応型サービス事業所として意見交換や経験を共有している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。地域包括支援センター、民生委員、他事業所の方へ出席して頂き、活動報告を行い意見を頂いている。また、12月開催より事業所内開催としご家族にも参加を依頼。実際に利用者様の生活様子を見て頂いた上で貴重な意見を活かしていきたい。	小規模事業所2か所をメンバーに依頼しており、同業者として意見をもらって運営に活かしています。会議は利用者があるフロアで行うので、入居者の様子を見て率直な質問や感想などをもらっています。議事録は職員と共有しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録を作成し、甲府市に提出している。運営推進会議の実施状況についての指導を頂き改善に向けて取り組んでいる。また、日頃より運営していく上で疑問点や質問などあれば直接出向いたり、電話で連携を図っている。	運営上の疑問や質問、相談など、日頃から出向いたり電話で市担当者とはやり取りをして協力関係が築けています。市には運営推進会議の議事録を作成して提出し、運営推進会議についての指導や助言をもらい、より良い会議になるように改善しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないため、月1回のミーティング内話し合いや事例に基づいた研修会など定期的を実施している。また法人内の身体拘束解消委員会(3か月1回)を開催し、意識的に取り組んでいる。またマニュアルはいつでも閲覧出来るようにしている。入職時のオリエンテーションでマニュアルの確認をしている。	身体拘束解消委員会が法人内にあり、3か月に1回開催し、事例に基づいた検討やスピーチロックに繋がらない声掛けの仕方などを話し合い、ダメと言わない支援につなげています。1回のミーティングでは、職員が参加し、解消委員会の報告と、事例検討を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修会を開催している。日頃業務の中でも、職員が互いに注意し合える環境作りを行い、意識的に取り組んでいる。入職時のオリエンテーションでも確認している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護研修を受講している。必要に応じて研修資料を見返して共有するようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時にも丁寧に説明するように心掛けている。また契約の際はより丁寧に説明するようにしている。利用者様やご家族様にもい件や要望を言って頂けるよう関係作りを心掛けている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には年2回意見や要望をアンケートとしてお聞きしている。また、その内容はプランに反映したり、ミーティング内で職員間で共有している。	家族には、年2回のアンケートで意見や要望を確認したり、その他面会時に伺ったりしています。把握した意見や要望は、ミーティング時に共有し、運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月常勤ミーティングや部門ミーティングで連絡、報告、相談を行っている。また、部門ミーティングは、日勤帯職員は全員出席出来る体制をとり、意見交換、情報共有を行っている。夜勤専属職員は、直接申し送りをしたり議事録の閲覧を行っている。	法人幹部による常勤ミーティングや事業所内職員で行うミーティングを月1回開催し、職員の意見や提案を聴く機会を持っています。出席できなかった職員には議事録や申し送りによって伝えています。個人面談は年2回行っており、その時に意見や要望、提案などを聞き取っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回副施設長との面談を行い、勤務する上での要望等聞き取りを実施し、個々の職員に向けた雇用整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講する環境作りや研修後のレポート提出や研修内容を他の職員に共有するよう努めている。また、年間研修計画を元に月1回の部門研修と法定研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	甲府市介護事業所研修や他の外部研修を通じて交流の機会を確保している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、初回面談や見学時または契約の際ご自宅に出向き、本人の意向や生活歴、困りごとを聞き取り、意向に沿ったプランの立案を行っている。また、パンフレットを用いてホームでの生活状況を説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時にご家族の困りごとや要望を聞き、過去の事例に添った説明を加えて信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を観察、把握、聞き取りをし、ご家族とも協議しながら本人に合うサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のストレングスにも着目して、共に支え合う関係を築くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会の確保や遠方のご家族に電話したり、ご本人の様子をお伝えするようにしている。毎月の日和便りに面会出来る事を明記し、気軽に面会に来て頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄妹、親戚、近所の友人の面会も人数制限は設けているが実施している。手紙や年賀状の送付も行っている。	インフルエンザやコロナ感染症が再燃している状況があるため、やむを得ず面会には制限を設けて対応しています。手紙や年賀状を送る支援を行い、馴染みの人との関係性が途切れないように考えていました。外出は、要望があれば家族対応で行います。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が互に関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年間行事やイベントを通じて利用者同士の交流の機会を作っている。また、生活の中でも洗濯干しや洗濯たたみなど皆で協力して行ったり、個別の得意なことを活かすよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に移行先に連絡し、ご本人の様子を聞いている。必要に応じてご本人のことや今後のことについて相談を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者にどのような生活をしたいかなど希望を聞き取りしている。聞き取りが困難な場合は、本人の思いをくみ取り意向を把握している。趣味活動の継続が出来るよう支援している。	入居者との何気ない会話や入居者同士の会話の中から聞き取り、ミーティングや申し送り職員間で共有し、思いや希望が叶えられるよう話し合って支援につなげています。困難な入居者には家族に聞いて把握しますが、意外な一面を聞くことができ支援に活かせることがあるとのこと。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に基本情報を収集し、これまでの暮らしの把握に努めている。前任ケアマネからも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実行表を作成し、個々の心身状態やご本人の持っている機能について把握できるアセスメント表を作成している。個々の状態に合わせた個別対応を実施しており、ミーティングや申し送り時に職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、職員、ケアマネ等と話し合うと同時に主治医、訪問、訪問歯科等関係者に意見を聞きながら介護計画を作成している。担当者会議開催して共有している。	介護計画はケアマネージャーが中心となり、本人、家族、職員、主治医、訪問歯科、訪問看護など、チームを構成している関係者の意見を聞いて作成しています。原案は担当者会議を開催し共有しています。モニタリングでは、心身状況や環境で変化があればアセスメントを行い、関係者の意見を聞いて修正しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践や気づき等タブレットにて記録している。ケース記録は職員間で共有し、実践。介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況により、定期的な受診介助や受診のための送迎を行っている。ホーム内では毎月行事を計画し取り組んでいる。ご家族やご本人の希望で外出も出来る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員と交流したり、地域の行事にも参加している。ボランティアの来訪はコロナ前はあったが5類移行後も受け入れは出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診や必要時応じて受診を行い、情報共有し、内服調整なども行っている。馴染みの病院への通院希望があれば継続できるように対応している。主治医の変更はご本人やご家族の意思に任せている。	入居時に、本人や家族からかかりつけ医の意向を確認しています。協力医の往診は月2回あり健康状態を見てもらっています。皮膚科や眼科受診の希望があった時や、突発な受診に関しては事業所に対応し、受診結果は電話で家族に伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報共有し、体調管理に努めている。必要に応じて訪問看護師より主治医に情報提供もして下さることによりスムーズに医療機関と連携することが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の情報や基本情報を持参し、主治医への相談やご家族と協力や連携しながら、利用者の早い回復に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に係る指針を契約時に書面を用いて説明し、理解を得るようにしている。状態変化した場合は早い段階でご家族と話し合い支援出来るようにしている。	重度化指針があり、入居時に家族に説明すると同時に、家族の意向も聴いています。重度化対応については、看取りは対応せず、医療が必要になった時には次につなげるという方針であることを確認しました。状態変化したときは医師の意見を聞き、早い段階で家族と話し合いをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルを整備しており、対応や手順について職員間で共有している。また、ひやりハットが続く場合は早めに対応することで事故を未然に防ぐことが出来ている。また、YouTubeを使用して緊急時対応の研修としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回防災訓練を法人内で実施している。緊急連絡網の作成、非常食の備蓄、防災グッズの定期的な点検、非常食の試食など実施。また、地震発生時と水害時は避難場所が異なるため避難経路の確認を新入職員には適宜行っている。	火災・地震時の避難所は、青葉町グラウンド、水害については自治会館となっており、避難場所が異なります。訓練では、避難経路の確認をしています。BCP(事業継続計画)については、職員全員が研修を受け、すべての職員が理解しています。2階のエレベーターが使用できない場合の訓練も行い、災害に備えています。	災害時に2階から階段を降り、非難する訓練をしているのですが、いざというときの為に、より安全な方法を考え、落ち着いて行動ができるよう、繰り返し確認していくことが必要ではないかと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、尊敬、敬う心を忘れず意識的に日々の言葉かけやケアを実践している。	利用者を中心とし利用者それぞれのできることを尊重し、日常生活において礼節と尊厳を持ち、日々の関わりを大切にするという方針の下、トイレへの声掛けや入浴、排泄時の羞恥心への配慮等、一人ひとりを大切にされたケアが実践されてきました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生日の昼食メニュー、テイクアウトメニューの選択。衣類の選択や趣味活動が自由に行えるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の体力やペースに合わせ、午睡や必要に応じて自室で食事したり、自室で寛ぐ時間も大切にしている。趣味活動に没頭している時は、ご本人の意思に任せている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の選択で洋服選びや化粧なども行って頂き、おしゃれが楽しめるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント食ではほうとうの麺作りや野菜切りを一緒に行いながら手作り食の提供も行っている。下膳やはし配りなど簡単な作業は職員と一緒にしている。	食事はクックチルで届きますが、週2回は手作りの食事が提供されます。入居者にはそれぞれの方のできる力を見極めて、簡単な調理や箸配り、下膳などをしてもらっています。外食ができないことからご当地グルメを企画し、入居者が全都道府県を制覇し、現在はリクエストランチを開催しているとのこと。	写真で拝見する入居者の皆さんの表情がとても明るく、いい顔をされています。食べる楽しみがあることは、人を元気にしてくれます。今後も皆さんが楽しめる企画を期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重やBMIを把握し、糖尿病の方へのサポートとして提供量の調整をしている。必要に応じてトロミや小刻み、栄養補助食品の提供も行っている。食事水分摂取量の把握も行っている。食事を拒否される場合は、食べれる物を提供したり、時間をおいて提供したり工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは全身の健康や病気の予防にも繋がるので毎食後実施している。月1回歯科医の往診を受けブラッシング指導。受診にて義歯の調整やクリーニングも実施している。また、毎食前には、唾液分泌のためは早口言葉や口腔体操を実施している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄チェックと排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導を行っている。ご本人が行えない排泄動作は介助している。出来る限り布パンツを使用するよう支援している。	排泄チェック表はタブレットに記録して共有できるようにしています。それを活用して、早めの声掛け、誘導をし、失禁の軽減とトイレで排泄できるようにと、自立に向けた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者には主治医と相談して下剤を用いる場合もあるが、日頃から体操や水分提供をこまめに行い、個人に合わせた予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望を尊重し、入浴時間の調整や温度の調整を行っている。個浴でプライベートを確保している。失禁があった場合は状況に応じて対応している。コロナ前は法人内の温泉も利用していた。	入浴日は決めず入居者の希望により入れるようにしています。風呂の温度や入浴時間も本人の希望に沿うよう支援し、満足感を持ってもらうように努めています。法人内にはかけ流し温泉があり、現在は利用していませんが、コロナ感染症が落ち着いたので再開したい意向です。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者の生活習慣に合わせて安心して眠れるように支援している。ご家族にも使い慣れた寝具を持参していただくなど協力していただいている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は専門医に相談して調整している往診時には薬剤師も同行している。副作用についても情報を共有し、職員全体に申し送りしている。また、個人の薬説明書もファイリングして閲覧出来るようにしている。必要に応じて薬剤師に相談している。食前後の配薬や服薬介助はダブルチェックを実施したり、利用者と一緒に氏名を確認し、誤薬がないよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、好きなものなど趣味活動を積極的に取り入れている。外出行事は、なかなか出来ていないが、近所への散歩は出かけている。また、外食の代替えとしてテイクアウトを利用して選択メニューを取り入れている。自宅から継続して行って来たことは、日和でも行えるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて近所への散歩や外気浴を行い、健康維持に努めている。来春ご家族と本人の希望にてお墓参りを希望されている方がおり、3月下旬頃外出を予定している。	事業所の隣地にあるグラウンドを1周したり、テラスに出たり、住宅街を散歩して外気浴を楽しんでいます。コロナ感染症の影響がまだ残っていたため外出は自粛していましたが、秋には紅葉狩りに行くことが出来ました。春には外出、外泊も可能にしていきたい意向です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自身で管理している方もいる。また、月1回訪問販売のパンの購入を実施している。個人の買い物に関しては、職員が代行したり、ご家族が面会時、持参して下さっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親せき、ご友人との電話の取次ぎは適宜行っている。遠方のご家族とはなかなか面会も出来ないで、電話で話をする機会を設けたり、職員が代行したりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間は廊下や室内の照明を調整している。共有スペースのテレビの音量も調整している。室内装飾は季節感を大切にみんなで作成したり、飾り付けを行っている。また、動線に物を置かないよう工夫している。	共有フロアは動線が確保され、適度な明るさと清潔感が感じられる空間です。グループごとに座っている入居者の方が、思い思いに過ごしており、にこやかな笑顔が印象的でした。フロアや廊下の壁には、季節感のある作品が飾られていました。壁に貼られた日本地図に、入居者の皆さんが制覇したご当地グルメが書かれ、会話のきっかけにっていました。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置の工夫や仲の良い方同士が交流できるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や大切にしている物をご持参して頂き、その人らしい生活が維持できるようにしている。	ベッドは事業所の物を使用します。居室には鏡台、仏壇、位牌、家族写真等、思い思いの馴染みの品が配置されていました。職員は一人ひとりのこだわりや性格に合わせて、アドバイスを行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の居心地の良い空間作りを心掛けている。一人一人が自立した生活が送れるよう必要に応じて掲示したり、職員が言葉かけを行いながら支援している。			